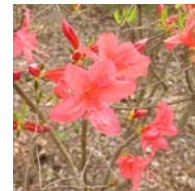


県民の森 花ごよみ 4月号

～今月はこんな花が見られます～



東海地方、四国、九州南部の山地に自生するが、普通は庭に植えて鑑賞する。落葉低木。秋は「どうだんもみじ」が楽しめる。
〈ツツジ科〉



晩春から初夏にかけて、各地の丘陵から山地を彩る、日本人にもっとも親しまれている野生のツツジ。花の色や形には変化があり、多くの品種が知られている。
〈ツツジ科〉



別名:コゴメバナ。河岸の岩上などに自生。日本のものは栽培品が野生化したともいわれる。名前の由来は、葉がヤナギを、花が雪を思わせることからつけられた。別名の小米花は花を米粒に見立てたもの。落葉低木。〈バラ科〉



葉の展開と同時に開花する。日本の野生サクラの代表種で山地に広く分布し、古くから人々に愛されている。ソメイシノより開花は遅い。寿命が長く、巨木も多い。秋の紅葉も美しい。古くは浮世絵の版木に使われ、現在も本格的な版木にはヤマザクラを用いる。〈バラ科〉

ヤマザクラ



スモモ

中国中部原産の落葉小高木。山梨県や長野県では野生化している。名前の由来は、果実が酸味が強いことによる。季は中国名。〈バラ科〉

ハナミズキ



北アメリカ原産。大正時代のはじめに、東京市長がアメリカへサクラの苗木を贈った際に、その返礼に日本へ贈られてきた「日米親善の木」として有名。アメリカハナミズキはアメリカの国花。〈ミズキ科〉



植物園

ドウダンツツジ

コブシ

ヤマツツジ

コギヤナギ

桜山

第二広場

第一広場

森の加チャ-センター

駐車場

ウグイスカグラ

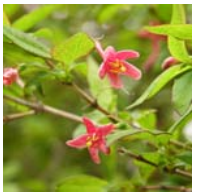
ウグイスカグラ

マツ見本林

ヤマザクラなど

ヤマツツジ

オオムラサギ



別名:ウグイスノキ。名前の由来は、ウグイスガクが転訛したとの説もあるが、定説はない。本種は全体に毛があるが、毛がないものをウグイスカグラという。落葉低木。〈スイカズラ科〉

ヤマザクラなど

ヤマザクラなど

チョウセンレンギョウ



朝鮮半島原産。枝が弓なりに長くのびるのが特徴。落葉低木。〈モクセイ科〉

コブシ



花は香水の原料に、樹皮・枝葉からはごぶし油をとる。花の時期にはタムシバとの区別がなかなかむずかしいが、花のすぐ下に小形の葉があることで区別できる。〈モクレン科〉



● トイレ

モデルコース：ゆっくり歩いて約90分

発行：茨城県植物園管理事務所